

## 四旬節第5主日 聖書と典礼

### ■24年3月17日 第25回 み言葉の分かち合い

#### ●第1朗読 エレミヤ書 31・31～34

エレミヤが活躍した紀元前7～6世紀はバビロン捕囚の時期。神は、イスラエルの家と「新しい契約を交わす。」とあります。新しい契約については、旧約聖書中、複数の箇所で見られ、主に「永遠の契約」(エレミヤ 32・40)「平和の契約」(エゼキエル 34・25)があります。

イエスは最後の晩餐<sup>ばんさん</sup>の席で、「新しい契約である。」(ルカ 22・20)と、この契約が成就したことが語られています。

イエスの死と復活により、この新しい契約は完成され、信徒は、神との和解と永遠の命が与えられました。エレミヤの預言は、イエスの業と再臨を暗示しています。

#### ●第2朗読 ヘブライ人への手紙 5・7～9

ゲツセマネの園における、イエスの祈りの姿が語られています。

- ① 祈りの態度：激しい叫び声をあげ、涙を流し、とあるのは、神を畏れ敬う態度やイエスが人々の罪を背負う重圧の姿を現しています。
- ② 祈りの内容：願いごとを祈り、具体的な方法は神に委ね、「み旨が行われますように」と祈ることで、これから歩もうとすることを主に委ね、主の轡<sup>くびき</sup>(計画)身につけ、これに従います。
- ③ 神への従順：この場面におけるイエスの姿は、神に対する従順と信頼が表現されており、私たちもこの姿に倣います。  
マリア様への受胎告知の場面において「お言葉どおり、この身に成りますように。」(ルカ 1・38)とマリア様は祈られ、神への従順と信頼が示されています。

#### ●福音書朗読 ヨハネ 12・20～33

23節では、イエス自身を「一粒の麦の粉<sup>こな</sup>」にたとえられており、これが地に落ちることで豊かに実り、自分の死が間近いことを悟っています。己の命を大切にし、この世の欲望に身を任せて歩む者は命を失う。回心し、信徒となり、主に従い仕えようとする者には、罪は赦され、永遠の命が与えられます。

この世の支配者、イエスを迫害しようとする者、この世に働く大いなる悪を追放することで、神の国は実現され、イエスを信じ、永遠の命が与えられている者には、この国の扉は開かれています。回心：心を耕す、との意味もある。